

酒々井町

郷土研究会会報

第123号

平成19年1月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

新年を迎えて

会長 青木 朝次

明けましておめでとうございます。會員各位におかれましては、ご健勝にて清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は郷土研究会発足三十周年にあたりましたので、江戸時代徳川幕府により開設された野馬方役所の佐倉牧により酒々井が大変栄えていたことを物語る「佐倉牧と酒々井」の郷土史講座ならびに古文書「島田家文書」などの展示会を記念行事として実施し好評を得ることができ、ありがとうございました。

今年も會員の皆様方のご協力をいただき、運営の更なる刷新をはかりなお一層の発展に努めるつもりでございます。

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

郷土のむかし

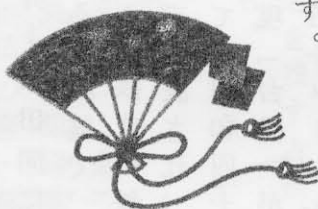
高木 正浩

郷土の酒々井には、およそ二万年前からヒトが生活して来ました。

「酒々井町史」によれば、本佐倉北大堀の国道二九六号線バイパス用地から、メノウで作られたナイフ形石器が発見されています。

賀正

丁亥 正月



ナイフ形石器は、後期旧石器時代に毛皮や肉を切ったり、木を削ったり、物を突き刺したりするのに使われていたものです。

この様なナイフ形石器は、伊籬や墨の遺跡からも発見されています。

「歴史民族博物館」の資料によれば、約二万年前の日本列島の人口は

五千人前後で、十数人単位で移動の生活をしていました。

旧石器時代のヒトは、ナウマンゾウ・野牛・ウマ・シカ・クマなどの大型の動物、キツネ・ネズミなどの小型の動物、また魚類や、クルミ・クリなどの木の实を食糧として生活していました。

日当たりの良い水辺を選んで生活していた郷土のむかしのヒトたちはどんな物を食べていたのでしょうか。毎日何を考えていたのでしょうか。いろいろなことを想像していると、自分がタイムスリップしたようなわくわくした気持ちになります。むかしから多くのヒトたちを育んできた郷土について、その魅力のある歴史の醍醐味をこれから求めていきたいと思えます。

総会案内

郷土研究会の第三十一回定期総会を平成十九年一月二十八日(日)午後一時三十分より中央公民館研修室において開催いたします。

會員の皆様、何かとお忙しいことかと存じますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

長福寺閑話

小坂 昭雄

阿弥陀山長福寺は、真言宗智山派に属し酒々井町上岩橋に所在しております。私は同寺の檀家で、上岩橋に生まれ、そして育ち、今ここで黙々と八十路を歩いております。

一、上岩橋とは

私が社会に初めて出て一ヶ月位経って新入社員の歓迎会がありました。その席上で「小坂君、君は上岩橋だったな、上岩橋とはどんな橋だ」今まで考えたこともない質問なので返事に窮してしまいました。後日判ったのですが、上司は日本三奇橋の一つとして知られる、山梨県「猿橋」の出身だったのです。

先輩諸氏の記述によりますと、京都醍醐寺の保管する文献に、中世の久寿二年(一一五五)「醍醐雜事記」の中に印東庄内の郷村(現在の大字)として、篠塚・六崎・中澤・新橋・石橋(岩橋)・小上(尾上)等の名があげられ、庄の範囲は概略現在の佐倉市北東部から富里市北西部・酒々井町に及んだものと推定されます。肝心の上岩橋は上記の「石」が何かの事情により「岩」に変化したものと思われ、当時は柏

木・下岩橋も含めて「岩橋」と称されておりました。

徳川時代になり、政治や社会機構が再編されて柏木・下岩橋が分離して現在の「上岩橋」となったものでしょう。結論として「橋」の意味・由来は判りません。

現上岩橋における最大の「橋」はJR成田線の酒々井―成田間にある「台橋」と称される跨線橋で、明治三十年(一八九七)私鉄成田鉄道が開通した時、木造で建設され、その後幾多の変遷を経て、昭和四十八年十月複線化に伴い現「台橋」が建設されました。長さ五十メートル、幅七メートルです。

上野界隈の散歩

養輪 光正

十一月二十四日車窓からほぼ刈り取りが終わった田園風景に目をやっている間に京成上野駅に到着。

本日の名勝探訪は上野の山・文化ゾーンに集中しているため、歩き慣れた人達には物足りなかったことでしょう。

最初は、日本の行く末をいつも暖かく見守ってくれる「西郷」ドンとの

立ち話もそこそこに開館十時になり「下町風俗資料館」に行く。

明治・大正の古き良き時代の下町ゆかりの生活道具や玩具・年中行事関係の資料が各コーナーに展示されており館員の分りやすい説明で悪戯盛りに戻り興味をそそられた。

次に不忍池に建つ「弁天様」に詣でる。ここはいつ来てもお線香の絶えることなく人々に信仰されている。ここから目前の坂上には重要文化財「清水堂」が京都の清水堂を模して建立されている。

本日探訪の最後は「東照宮」である。徳川家康を祀る宮社で三代家光



上野 東照宮

が建立、社殿は権現造りで国宝の金色殿である。ながい参道の両側には銅製の灯籠が立ち並んでいる。各灯籠には寄進した大名の名が記され往時の権勢の程が偲ばれる。十一時四十五分現地解散となる。その後は自由昼食。デパート・博物館・美術館巡りや、下町ウォーキングを楽しみむ組や、早々と家路へと急ぐ本日の十九名でした。

我孫子方面に参加して

川島 俊彦

三十三名を乗せたエアサスのバスは疲れることも無く柏の紅龍山布施弁天東海寺に到着した。東日本随一を誇るだけあって楼門・本堂・鐘楼は目を瞠るほど見事な物である。

寺の由来によれば、大同二年(八〇七)空海が彫刻した尊像が但馬国から大雷雨を伴った紅龍に乗って飛来した。後年弘法太子が布教中にこの地に止宿してこのことを知り、非常に感動し自ら堂に安置し東海寺を開創した。後に帰京して嵯峨天皇に奏上したため勅願所となったので「菊の紋章」を許された(本堂向拝の四柱に「菊の紋章」がある)。

郷土研日誌 布施弁天



享保二年に建立された本殿は、「卍」と十六弁の「菊の紋章」の金色が晩秋の日に映え印象的でした。裏手の樹間から望む筑波山は酒々井で見るとより三倍位の大きさに見え、お寺の荘厳さが一際ひきたちます。

道「しようなん」で昼食を頂き午後から我孫子「鳥の博物館」へ

員の熱心な説明と会員の質問で時間オーバーになりました。次の見学地「水の館」は時間の関係で四階展望室から手賀沼の大部分を見渡すことになった。

この沼はかつては汚染度ワーストワンの汚名を長くもたらしていました。が利根川の水を取り入れるようになってから現在ワーストファイブまで改善され、水生藻も生え種々の鳥も戻ってきたそうです。一方ワーストスリーの印旛沼もNP0はじめボランテイヤの方々の努力で綺麗になりつつあるようです。が、汚染の一番の原因は流域十五市町村の生活雑排水といわれています。

| 月日 | 内容 | 参加者 |
|----------|----------|-----|
| 9・22 | 名勝探訪上野方面 | 19 |
| 9・22 | 野草下見 | 2 |
| 9・25 | 野草下見 | 4 |
| 9・26 | 会報印刷 | 5 |
| 9・28 | 会報発送 | 15 |
| 9・29 | 野草観察会 | 19 |
| 10・4 | 三十周年行事打合 | 15 |
| 10・6 | 日帰りコース受付 | 4 |
| 10・7 | 千葉氏の研究 | 13 |
| 10・17 | 古文書を読む会 | 10 |
| 10・18 | 我孫子方面下見 | 3 |
| 10・19 | 三十周年行事準備 | 14 |
| 10・21-23 | 三十周年展示会 | 138 |
| 11・11 | 会報編集 | 4 |
| 11・21 | 研修部会 | 5 |
| 11・21 | 古文書を読む会 | 13 |
| 11・24 | 我孫子方面見学 | 32 |
| 11・29 | 運営委員会 | 18 |
| 12・1 | 柴又方面下見 | 3 |
| 12・2 | 史談会 和田見学 | 15 |
| 12・5 | 名勝探訪柴又方面 | 37 |
| 12・6 | 会報編集 | 5 |
| 12・12 | 会報編集 | 4 |
| 12・19 | 会報校正 | 6 |
| 12・22 | 会報校正 | 4 |

会計報告 (我孫子方面)

| | | |
|----|-------------|----------|
| 収入 | @1.500円×32名 | =48.000円 |
| 支出 | 食事代 | 34.650円 |
| | 諸雑費 | 10.406円 |
| | 計 | 45.056円 |
| 残 | 2.944円 | (研修部へ) |

楷の木について

亀井 香久乃

立冬後の秋晴れの旬日、娘と成田山へ出かけた。平日だが境内は参詣人が穏やかな表情で、三々五々行き交っていた。今日こそ楷の木もうでを是非にも確認したい。以前からの念願だ。

成田山の書道美術館にその木は在ると教えられていたので、山内を探す。坂道を辿る途中、錦鯉が長閑に泳ぐ池端で一服、手持ちの麩菓子を与え喜ばせた。程なく書道館に到着。

立て札と共に件の木は静立していた。会えた喜びに心ときめく。

楷の木とは、中国原産の漆科の落葉樹で、学名トネリバハゼノキ、学問の木、孔子の木、台湾では欄心木等と呼ばれる。そもそも、楷の木が尊ばれる理由は次の一因にある。

中国春秋時代、紀元前七百年代、啓蒙思想家で名高い、孔子の高弟の一人孔子が、孔子の威徳を称えて生誕の地、中国山東省曲阜の一隅に孔子廟を建立し、その周辺に楷の木を植えたものが現在では立派な孔子林として、現代の若者達が入試または任官試験を志す場合は、挙つて詣で賑わうと伝えられる。

日本では大正四年、時の農商務省初代試験場長の白沢保美氏が、彼ら地より種を持ち帰り、発芽させ大切に育成の結果、日本国内に何十本か植生されている。中でも有名なものが岡山県備前市閑谷学校、栃木県足利学校、東京湯島聖堂などである。

特に閑谷学校の木は、最初に育成されたので、約九十年の歳月を経た立派な樹形で、秋の紅葉は漆科だけに見る価値十二分との評がある。

なぜ、楷の木が孔子の木として選ばれたかは、この木の枝の伸び方が真直ぐで、曲がらず振れず、葉付きも端正な羽状複葉ゆえに楷書に因んで書聖孔子様と重ね名付けられたようである。「楷書の木」とも言う。

雌雄別のため、一所に植えないと結実は難しく、開花も発芽後二十年は要するそう。見栄えは地味なので事前に由来を熟知の上鑑賞されるのが良いかと思えます。

三十周年

記念行事を開催

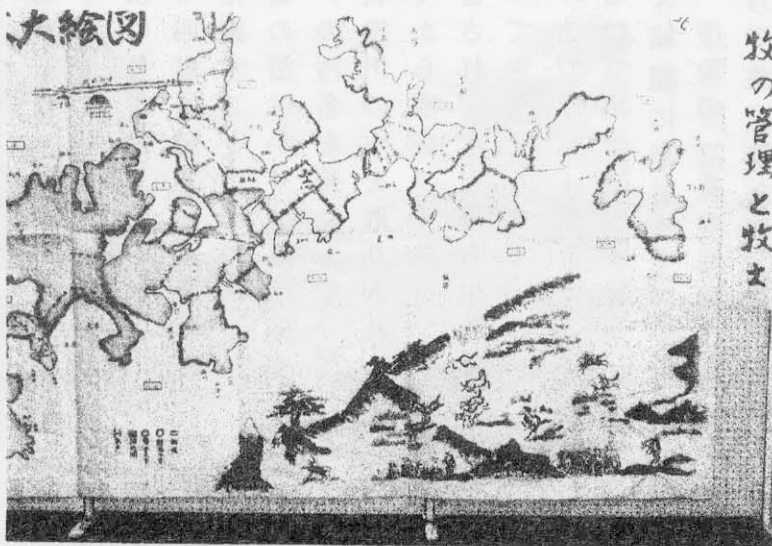
十月二十日から三日間、「佐倉牧と島田家文書」というテーマで展示会

を開催しました。

「佐倉七牧大絵図」を会場入口に掲示、中央には牧士頭島田長右衛門家に伝わる『島田家文書』と『佐倉七牧見取り絵図(天保十二年)』(いずれも文化財)等を置き、パネルでは野馬牧場の開設と牧の年中行事等を紹介。勇壮な野馬捕りの様子を描写した絵図(写真)も配しました。

期間中多くの方々立寄り、酒々井が大いに栄えたよき時代にタイムスリップしてお楽しみ頂きました。

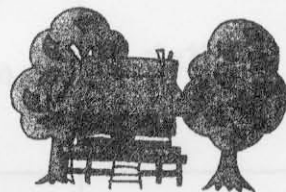
牧の管理と牧主



見学

案内

名勝探訪



初詣・赤坂方面

一月十九日 (金)
雨天代替一月二十二日 (月)

乃木大将を祀る乃木神社、時の南町奉行・大岡越前守忠相が愛知県豊川町を領していた縁で江戸屋敷に祀っていた豊川稲荷、俗に山王様といわれる日枝神社及び議会政治の発展に貢献した人々に関する資料が展示されている憲政記念館などをまわります。最後の記念館で昼食をとり解散です。もう少し廻りたいと思われの方は、国会議事堂などを見て廻られるのもよいと思います。

日帰り見学会

市原方面

三月六日 (火)
雨天決行

市原は、かつて古代上総国府がおかれ、文化・経済の中心として栄えたところで、当時を偲ばせる国分寺跡や国

分尼寺跡などを見学します。また二十如ほど南にある高滝湖傍の高滝神社を参拝して酒々井に帰ってきます。

《上総国分寺跡・国分尼寺跡》

今から千二百五十数年前、奈良時代の中頃、建てられた僧寺と尼寺で、上総国分寺は政治・経済の中心地でありました。

また上総国分尼寺の建物の復元に際しては、史跡の空間的広がりを経験し、天平建築の力強い構造美を鑑賞できるように配慮されたそうです。

《高滝神社》

延喜元年(九〇一)に成立した歴史書「日本三代実録」に名を残す古社。境内は広く約五千㎡ある。

七草粥を食べる会

二月九日 (金)

場所 中央公民館講堂
セリ 薺・薺・御形・繁縷・仏の座・菘
スズノ 蘿蔔の七草をまな板の上で包丁ですトントンとたたいてお粥に入れての七草粥。自然豊かな酒々井では七草全部町内で揃えることが出来ません。昨年は雪のためゴギョウが成長できずやつと小さな芽を見つけたことが出来ました。春は名のみのも二月九日今年も七草

全部揃えて、皆様をお待ちできるようお願いしております。

訃報

郷土研究会監事の筋玉子さんが十二月十三日ご逝去されました。永年献身的に活動され、会の発展に貢献されました。御冥福をお祈りいたします。

合掌

あとがき

明けましておめでとうございます。二〇〇六年の漢字は『命』でした。昨今、「命の軽重」について幾度となく論じられ、考えさせられてきました。多くの方が命の尊さ・大切さを訴えたかったのではないのでしょうか。貴重な命、全うしたいものです。さて、今期は、沢山の寄稿を頂戴しました。いずれも郷土の昔を語る貴重な内容であります。有難うございました。紙面の都合で、次号以降に登載することになってしまったものがあります。ご容赦下さい。これから、是非、皆様方の活発なご投稿をおまちしております。

郷土研行事案内

平成19年1月～3月

| | | | |
|-------------|---|--|--|
| 史談会 | 1 月 休 講 | ⑥ 2 月 3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑥ 講師：高橋健一先生 | 3 月 3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑦ 講師：高橋健一先生 |
| 古文書を 読む会 | 1 月 休 講 | 2 月 20日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」⑧ 講師：青木朝次会長 | 3 月 休 講 |
| 名勝探訪 | <p>「初詣で・赤坂方面」 1月19日(金) 雨天代替日 1月22日(月) 参加費 100円(資料代) (当日の問合せ 7:00～7:30 寺本まで 4)</p> <p>集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース 京成酒々井駅一町屋駅一乃木坂駅…乃木神社…豊川稻荷…日枝神社 …憲政記念館 ⇒ 13:00頃現地解散、その後自由昼食 (場合によりコースの変更あり)</p> | | |
| 野草の会 | <p>「七草粥を食べる会」 2月9日(金) 会場 中央公民館講堂(受付 11:00/会食 11:30) 定員 70名 会費 700円 申込受付 参加ご希望の方は、最寄りの運営委員にお申込み下さい。 なお、総会の日(1月28日)1階ロビーにても受け付けます。 <u>当日、お手伝いして下さる方は、9:00頃 中央公民館・調理室にお出で下さい。</u> * 問合せ 犬島まで</p> | | |
| 日帰り 見学会 | <p>「市原方面」 3月 6日(火) 雨天決行 定員 33名 町バス利用 参加費 2,000円(昼食代を含む) 集合時刻・場所 9:00 中央公民館前広場 コース 中央公民館一上総国分寺跡一國分尼寺跡一高滝神社<昼食>一光風台・常住寺 一中央公民館 16:30頃帰着予定 (場合によりコースの変更あり) キャンセル 実施3日前まで、寺本()へご連絡下さい。 << 申込受付 1月28日(日)(総会の日) 13:00 1階ロビー >></p> | | |
| 第31回 総会 | <p>1月28日(日) 中央公民館研修室(2階) 受付は、1階ロビー 受付 13:00 開会 13:30 年会費 1,000円をご用意下さい。 <議題> ・平成18年度事業報告及び決算の承認について ・平成19年度事業計画及び予算案について ・役員改選について ・その他</p> | | |